

## 9 学習活動にはふさわしい学習形態がある

### ☆目的に応じた学習の手法

学習目標に合った学習活動を行うためには、学習形態だけでなく、学習の手法も考えなければなりません。

(例)

- ・ブレインストーミング  
自分の考えやひらめき、アイデアを自由に出し合い、そこから想像と連想を働かせて多くのアイデアを生み出す発散思考の代表的な手法です。グループで行うと、協議しやすく意見もまとまりやすいので効果的です。

#### ・ロールプレイング

場面を設定して役割を演じる体験活動を通して、気付きを得る活動です。友達の演技を見て気付いたことや、自分自身が役割を演じながら気付いたことなどから、自分の考えを深めます。

### 目標に合った学習活動

一斉講義型の授業だけでは、「主体的・対話的で深い学び」の実践にはなりません。しかし、様々な活動をさせることだけが目的になってしまふと、「活動あって学びなし」…ということにもなりかねません。学習目標に合った学習形態や学習活動を工夫して、生徒の深い学びにつながる授業づくりを心掛けましょう。

### 学習活動に合った学習形態

学習活動を進めるときには、学習活動のねらいを実現するためにふさわしい学習形態を考えることが大切です。

#### ・自分の考えをまとめる活動・・・個別学習

資料を読んで調べたり、根気強く作業したりしながら、自分の考えをまとめる学習活動です。考えをまとめる際に書く活動を取り入れると、より明確になりますし、あとで振り返ったときに自分の考えの変化に気付きます。

#### ・考え方を交流する活動・・・グループ学習

個々の考え方を交流し、グループの考え方をまとめる活動です。意見をまとめる活動を通して、互いの考え方を認め合い、自分の考え方を深めることにつながります。

#### ペア学習

話合いが苦手な生徒に有効な活動です。はじめに話合いのテーマを確認し、自分の考え方をまとめさせます。次に、時間を決めて一人が話します。話し手と聞き手は教員の合図で交代します。互いの考え方を聞き合った後、最後に考え方を交流します。

グループ学習のあと、再び自分の考え方をまとめる時間を設け、思考の深まりや広がりを促すと良いでしょう。

**個別支援が必要な生徒への対応を考えよう**

### 学習に取り組みやすいような配慮を

座席の位置を配慮することで、落ち着いて授業に参加できることがあります。前を向く講義型の座席であれば、周囲が気になる生徒は、前方に座れば他の生徒の動きが目に入りません。そのため、教室前方の座席を指定する方が落ち着いて過ごせるといわれています。

後ろからの視線が不安で欠席がちであった生徒に対して、全ての教科で座席ができるだけ後方にする配慮をしたところ、少しずつ学校に登校できるようになったケースもあります。 →1章-8~11

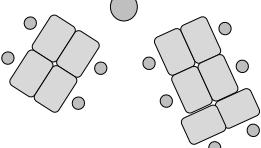
## 学習形態の違いによる学習の特徴

ペア型



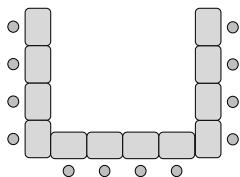
- ・集団内の活動が苦手な生徒に有効です。
- ・生徒全員が、話したり聞くたりする活動ができる。
- ・気軽に意見交流ができ、自分の考えの確認がしやすい。

班型



- ・班員が知恵を出し合って、話し合うことができる。
- ・手元の教材を互いに見合いながら学習できる。

コの字型



- ・生徒が互いの顔を見ながら学習することができる。
- ・教員は各生徒の座席近くで学習状況を把握できる。

立型グループ活動

模造紙やワークシートを壁に貼って、机や椅子を使わずに、立ったまま議論する。無駄話が減り、スピーディーに話し合いが進んで、議論が深まるという利点がある。

ポスターセッションのように、聞きたいと思う発表者の所へ聞き手が移動し、活発に意見交換をするものもある。

## ☆話合いの形態と人数

人数にきまりはありませんが、話合いの目的によってそれに適した人数規模があります。その時間のねらいを明確にした上で、適切な学習形態を選ぶよう、構想しましょう。

(例)

2人

- ・スキルの練習
- ・テスト
- ・確認
- ・インタビュー

3人～4人

- ・意思決定
- ・課題解決
- ・実験

5人～6人

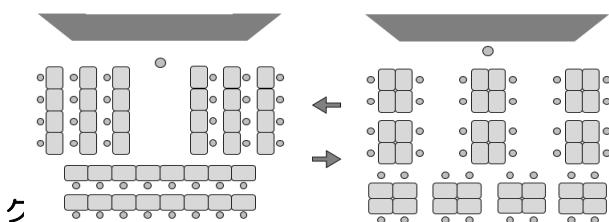
- ・情報交換
- ・アイデアの共有
- ・発表

日常的に、次のような「コの字型」に机を配置して授業をしている学校があります。そしてグループ活動を行う際には、授業中の短い時間で机を移動し、「班型」の形態へ変形させます。

机の配置を工夫することで、全体での講義からグループでの意見交流へ、そして全体での協議という学習活動がスムーズに行えます。

コの字型

班型



## 「話合い活動を通した生徒同士の学び合い」の良さ

話合い活動を通して、新しい内容や考えが見つかる、思いもしなかった結論が出る、生徒たちの考えが変わる、新しい疑問が出てくる等の効果が考えられます。ただし、話合い活動を行う際には、何をねらいとするのか、はじめに決めてから取り組みましょう。することにより、話合い活動を通した生徒同士の学び合いは、生徒にとって新たな気づきや学びの多い活動といえるでしょう。